

今後検討する項目（案）

[基本的考え方]

医療人として相応しい薬剤師を養成する観点から導入された薬学教育6年制を修了した者に対して、薬剤師国家試験がその資質を有するか否かを確認する最終段階であることを踏まえ、薬剤師国家試験を通じて、6年制課程を通じて薬剤師として必要な知識、技能、態度に関する資質を習得しているか否かを的確に確認する。

1. 試験区分及び問題数について

- 試験区分については、現行区分を参考にしつつ、6年制薬学教育課程における各分野を振り分けることで対応できるのではないかと。
- 新たな試験区分とする場合、どのようなものが考えられるか。
- 問題数については、試験時間への影響等も考慮しつつ検討する必要があるのではないかと。

2. 薬剤師国家試験出題基準について

- 薬剤師の養成のための薬学教育が6年制になったことを踏まえ、薬剤師国家試験出題基準についても、改定する必要があるのではないかと。
- 改定にあたっては、6年制教育課程の基礎である、薬学教育モデル・コアカリキュラム及び実務実習モデル・コアカリキュラムを基本としてはどうか。
- 出題基準の体系については、現行の出題基準に沿って、「大項目」、「中項目」、「小項目」、「小項目の内容の例示」とすることが適切か。
また、現在の出題基準において、「大項目」等の各項目や「小項

目の内容の例示」に記されている事項・分野については、どのような内容とすることが適当か。

- 出題基準の改定作業については、本検討会委員を中心に、各分野ごとに作業チームを構成する方法としてはどうか。

3. 試験の実施方法（出題形式、回答形式を含む。）について

- 試験の実施方法は、現行と同様、筆記試験としてはどうか。
- 実地試験を導入することについてどう考えるか。
- 6年制教育において習得した「知識」、「技能」、「態度」を確認するための出題方式として、どのようなものが考えられるか。
特に、「技能」及び「態度」を確認するには、どのような出題方式が適当か。
- 医療人として必要な問題解決能力を確認するための出題形式として、どのようなものが考えられるか。
- 各試験区分ごとの出題のほか、基礎領域と医療の実践領域に関連する複合的な出題を行うことについて、どう考えるか。
- 回答形式について、多肢選択方式を基本とすることについてどう考えるか。
- 設問肢数、全回答肢正誤選択方式などについては、現行の試験方式の実施状況や評価等を参考にしつつ、検討してはどうか。
- 試験実施時における出版物等の貸与による回答を可能とする方式について、どう考えるか。

4. 合格基準について

- 現在の合格基準について、どう考えるか。
- 全体の正答率のみならず、各試験区分ごとに一定割合以上の正答率を有する場合に合格とすることについてどう考えるか。

- 正答率とは別に、正答しなければ不合格とする問題を出題することについて、どう考えるか。

出題する場合、どのような問題がそれに該当すると考えられ、また、全体に占める出題割合や出題範囲に関する基準等については、どう考えるか。

5. その他